

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	雪国たべごとと推進事業
事業主体 (連絡先)	雪国たべごと研究室 (稲見朋子 080-8581-6110)
事業区分	(2) 通年型観光・広域観光の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,587,858 円 (うち支援金: 2,016,000 円)

事業内容

栄村を中心とした北信地区の「たべごと」(食文化やそれに伴う技術)を伝承するため、地域の食材や技術、それにまつわる文化歴史等を学ぶ観光イベントを開催した。

- ・山菜イベント
 - 4月 著名な講師とともに山菜リサーチ
 - 5月 GW 「山菜おせち」の販売
 - 9月、10月 栃の実の精製と現代料理化研究会
 - 11月～1月 野沢菜漬けと料理のオンライン講座
- ・村民向けの野沢菜漬けイベント

- ・キノコイベント
 - 10月 きのこと狩り・料理教室、通信講座
- ・マタギイベント (試行)
 - 狩猟体験ツアーと燻製イベントの実施
- ・SNSによる活動紹介および告知

事業効果

- ①今回イベントの告知を通して北信地域の食のことを周知できた人数
1,062人 (関係Instagramフォロワー数より)
著名人のコラム等でも紹介いただいた。
- ②山菜きのこの採取から調理まで学ぶ参加者(価値を実感する人物の増加)
56名 (含アケヤマワークショップ 96名)
うち3,40代の若者6名
- ③猟友会の若者(3,40代)がイベントに関わる人数
1人→3人 ※猟友会の3,40代は現在7名
- ④雪国たべごと研究室のInstagramフォロワー数
9月時点150人 ⇒ 3月10日時点507人

今後の取り組み

今後、本会のたべごととの活動を通して、北信地域および雪国の魅力を感じてくれる方々を増やしていきたい。そして、地域内地域外の方々が、「雪国のたべごと」中心にしてSNSも活用しながら研究・情報交換などの交流をする、いわゆる「婦人会」のようなたべごととの互助組織を目指して、活動を行っていく。

令和7年には本地域の特に秋山郷を中心とし「たべごと研究フェス」を開催したい。3日間等の期間を設定し、その期間は「どこどこで集落のかあちゃんが栃の実さらしているので自由に手伝ってよい」「どこどこで〇〇先生が1時間マタギ講義を開くので自由に参加してよい」といった地域の方の協力を得たオープンかつ自由参加の会としたい。令和6年はその準備や交渉も行う。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【野沢菜漬けイベント】

【目標・ねらい】

- ①雪国のたべごととの周知
- ②知識、価値を知る人の増加
- ③新たなファン層の獲得

※自己評価 【A】

【理由】

- ・当初予定になかった村民向けのイベントも村民からの要望により行え、コミュニティの形成につながった。
- ・たべごととの価値について著名人からも評価、紹介いただき外部とのつながりのきっかけとなった。